

帰国研修員便り

【研修の思い出と感謝レター】



デイヴィットさん（ザンビア帰国研修員）から近況報告が届きました。

- 1) コースリーダー： 鳥飼 久敏
- 2) 現地活動報告： Mr. CHANDA David
(ザンビア帰国研修員)

2018年2月20日

(公財) 北九州国際技術協力協会 研修部

JICA/KITA 技術研修に参加したデイヴィットさん（ザンビア帰国研修員）から研修お礼の便りが届きました

今回ご紹介する帰国研修員便りは、2017 年度：研修コース：「日本的モノづくり現場のノウハウ」に参加されたデイヴィットさんの研修の思い出と感謝のレターです。

1. 今回レポートした帰国研修員の紹介

名前 (通称)	写真	氏名	国名	受入れ研修期間
デイヴィット さん		Mr. CHANDA David	ザンビア	2017/10/22 ～ 2017/12/07



【研修時の記念写真】



世界各国から派遣された研修員（11 名）の皆さんは、北九州市（JICA九州）に集まり「日本的モノづくり現場のノウハウ」について勉強しました。

2. 研修コース期間中の記念写真



研修訪問先でお世話になった企業の皆さんと研修員



3. 鳥飼コースリーダーよりメッセージ



2017年の「日本的モノづくり現場のノウハウ」コースは9か国11名と多彩な研修員が参加しました。明るく、積極的なディヴィットさんはとても印象に残っている研修員のひとりです。

日本のモノづくり特に現場のノウハウについて、参加した研修員の方々に学んでいただき、自国で広めて欲しいと企画した研修コースです。

「研修参加レポート」を読ませていただくと、今も研修中と同じように真剣なまなざしで真摯に取り組んでいる姿が目に見えます。ディヴィットさんのテーマの中で自分が学習した「ものづくり」の知識を子供たちに教えるがあります。このことを見学中に発見した時のディヴィットさんの様子は大きな体を揺り動かしていました。この光景は忘れられません。

ディヴィットさんの活動が持続的に進むことで、ザンビア、カサマの発展に寄与することを楽しみにしています。 Fight David !



研修旅行：新幹線車中のディヴィットさん

3. デイヴィットさんからの便り



皆様

日本で受けた研修に関してのレポートをお送り致します。

私がこの研修に参加できるよう尽力してくださったすべての方々に心よりお礼申し上げます。

ありがとうございました。

～ 研修参加レポート ～

日本のモノづくり現場のノウハウ生産性向上と設備管理

日本の九州で 2017 年 10 月 22 日から 12 月 6 日まで行われた【日本のモノづくり現場のノウハウ生産性向上と設備管理】研修を無事修了したことを報告します。この研修は日本国際協力機構（JICA）が提供し、北九州国際技術協力協会（KITA）により実施されました。

研修プログラムは主に製造業のための設備保全と生産性向上に重点を置いていて、対処すべき問題を明確にする IAS を活用した課題解決の手順と手法などが取り上げられました。また、QC7 つ道具、PEST 分析や、問題解決の 3 つのコツ、即ち PDCA、顧客第一主義と事実に基づく管理などが含まれていました。

興味深かった主題の一つはモノづくりの基本概念です。モノづくりは産業の精神と歴史を語る言葉です。これは、企業の理念や行動指針であり、例えばトヨタウェイがそれです。さらに、この中で、日本の伝統文化や考え方に基づいた日本の産業の成功についても振り返ることができました。

こういったものは、私たちザンビア人は気づかないし受け入れないものです。モノづくりはデザイン、製造、購買を含むトータルシステムであると言われました。

安全管理ももう一つの興味深いトピックでした。安全管理は、容認できないリスクを解消すること、と定義されています。労働災害を引き起こす要因とそれらの管理方法について議論しました。その他、保安全管理概論、自主保全、プラント管理改善、現場での品質管理、中小企業支援策、機械化推進方法、設備診断、生産管理システム、設備改善技術、日本のモノづくり文化など、多くが取り上げられました。

研修は講義、実習、トヨタを含む大小企業への現場訪問などで構成されていて豊富で包括的なものでした。講義は大学の先生方と、学歴だけではなく関連分野に長年従事した経験を持つ方々からも行っていました。実用的でかつ楽しく、適切な内容で、実際の現場から得られた知識とスキルを教えていただきました。

日本は長く豊かな製造業の歴史があり、勤勉な人々と高い技術、高品質の製品と効率性で有名です。産業化政策に沿って、産業化に乗り出したザンビアは日本から学ぶことがたくさんあります。設備保

全と生産性向上は日本から学ばなければならない内容として特に目立つものでした。人材の資質向上、自主管理、教育訓練、5S、安全、健康、環境管理方法などを含むTPMは日本から学べる有益な内容です。

私がこの研修プログラムに参加して選んだテーマは、「ISO 規格に適合する生産拡大のための中小製造企業の設備保全の強化」でした。Action Planを更新しましたので、このレポートと一緒に提出しています。私の主な目標は、私が得た知識を特に中小企業の製造部門の実務者へ伝えることです。私は、カサマ市及び北部州で製造部門の管理者・オペレーター教育に参画する、指導者グループ主力メンバーの育成プログラム実施を楽しみにしています。

もう一つの目標は、これらの概念を上級学校に進学する子供たちに紹介することです。これは、日本で視察したように、モノづくり、生産性向上、設備保全についての知識、理解を学生たちに深めてもらう試みです。

具体的には、青年会議所を通じて、上級学校に対し講義、実習体験、現場訪問、意見交換などを行う予定です。予想される障害も特定してその対策も提示しています。詳細は添付 Action Plan を参照してください。

最後に、このプログラムは豊かな日本文化を体験し、友好的な人々と交流する機会でもありました。ホームビジットプログラムでは、いくつかの日本の名所、博物館、文化遺産を訪ねる機会があり、個人的に日本文化の豊かさを理解するよいきっかけとなりました。

また、この研修のおかげで貴重な人脈を得ることができました。私がこの研修プログラムに参加できるよう尽力してくださった皆様にお礼申し上げます。

ありがとうございました。

クリックしてレポートを
ご一読下さい。(英語版)



4. JICA 受入研修期間中の写真集

JICA/KITA研修コースの写真集

(2017年10月～12月)



研修訪問先企業から歓迎を受ける



訪問先企業でモノづくりの習得



講義終了後の記念撮影



ジョブレポート発表中のデイヴィットさん



KITA 国際親善（研修員のお茶会）

以上